

令和7年度(2025年度)第2回自動車アセスメント評価検討会資料

新オフセット前面衝突試験における 子供乗員保護についての検討

2025/12/17
独立行政法人自動車事故対策機構 ナスバ

新オフセット前面衝突試験の子供ダミー評価導入の検討 残された課題

■後席子供乗員保護の試験結果のユーザーへの分かりやすい説明と表記及びジュニアシートの普及促進

課題1. 5段階の色分けによる情報提供

課題2. 特記事項

課題3. ホームページの見せ方

■子供ダミーの計測項目

課題4. 頭部移動量の計測

※各課題の詳細と対応案は参考1.～参考3.を参照

参考1．R7第1回検討会振り返り（1 / 3）

課題番号	検討項目	前回の事務局からの提案内容	第1回検討会までに頂いた意見	対応案
4.	頭部移動量の計測	令和7年度第1回で提案なし (令和6年度第2回検討会で継続して検討する項目として意見頂戴)	頭部移動量は非常に重要な検討してほしい	Euro NCAPの頭部移動量を参考に検討。 2026年度評価項目には含めず、今後の継続検討課題とする（「4.頭部移動量の計測」参照）
1.	傷害値情報の図 各部位の傷害値の配色の示し方	配色により傷害値の高低を示すカラー バーの案を提示	カラーバーが座席の上にあり、右側に座っている子供のほうが安全と捉えられかねないとも感じた 安全性が高い低いという日本語から、縦に表記するレイアウトの方が、直感的に分かりやすい	詳細のデザインについては外部に委託しているところ。カラーバー等ページレイアウトに応じて分かりやすく配慮して配置も決定する（「1.5段階の色分けによる乗用提供」参照）
2. 及び 3.	後席子供乗員保護の試験結果の掲載場所	HP上の、試験結果の掲載ページ (PDFファイル)、大人乗員の次のページに子供乗員の結果掲載することを提案	PDFの2ページ構成で、掲載されると、例えば、「自動車の通称名、子供」で検索した時に、このページにたどり着けるのか不安	各評価車両の詳細ページの新オフセット前面衝突試験の欄に、子供ダミーの傷害情報へのリンクを記載
			子供の評価のページをつくり、それを表示するところが一番のポイント。ページについてはこれまでの評価とは別で作って表示すること、あとは、ページへのリンクの仕方であるとか表示の仕方、それは具体的にワーキングで検討	子供ダミーの傷害情報と、情報の見方を併せて掲載する (「2.特記事項」参照) (「3.ホームページの見せ方」参照)
3.	後席子供乗員保護の試験結果ページの記載方法	各部位の傷害値情報を色分けした図と併せて、各部位ごとの傷害値を表として掲載することを提案	特段のご意見無し	-
		傷害値の表は衝突安全性能評価得点と誤解が生じない様、配点は表示しない	特段のご意見無し	-

参考2．R7第1回検討会振り返り (2/3)

課題番号	検討項目	前回の事務局からの提案内容	第1回検討会までに頂いた意見	対応案
2. 及び 3.	映像確認結果の 記載	試験結果の掲載ページ（PDFファイル）の傷害値の表の下部に特記事項として記載することを提案。見本となる画像を併せて作成（次回以降）	特段のご意見無し	定義とは異なる平易な言葉で説明を記載する（「2.特記事項」参照）（「3.ホームページの見せ方」参照）
		記載内容は、肩外れおよび腹部潜り込みが発生した場合は、その発生した内容と、実際に発生した場合の危険性について記載することを提案	特段のご意見無し	—
		映像から発生が確認されない場合は「なし」と明記することを提案	特記事項のところになしと書かれるとあるが、何がないのかが伝わらない。肩外れ、腹部潜り込みなしと書くか、確認事項なしということがしっかり分かるように	発生が確認されなかった場合は「映像から、特に確認された項目なし」と記載する（「2.特記事項」参照）
	特記事項の 記載内容	「肩外れ」及び「腹部潜り込み」について、EuroNCAPの規定を参考に、事象の定義を作成することを提案	試験方法の定義と、危険事象およびその防ぎ方の紹介とで、切り分けているかが心配 試験方法の定義とは別に、シートベルトが外れてしまうことが子供にとって危ないですよ、という説明はユーザー側の立場からの説明になる。そこを切り分けていただきたい	定義とは異なる平易な言葉で説明を記載する（「2.特記事項」参照）
		EuroNCAP CHILD OCCUPANT PROTECTION ver8.1（参照元） 4.2.1.1 Restraint の「or 以降」のとりあつかいについては引き続き検討	特段のご意見無し	特記事項の腰ベルトの拘束外れとして特記事項に記載したい（「2.特記事項」参照）

参考3．R7第1回検討会振り返り (3/3)

課題番号	検討項目	前回の事務局からの提案内容	第1回検討会までに頂いた意見	対応案
2. 及び 3.	特記事項の記載内容	特記事項の具体的な記載内容例を提示	「危険が高まります」という言い方は結構インパクトが大きく、そこの言葉選びも重要	誤解のない表現を記載 (「2.特記事項」参照)
			ホームページにもし載せるのであれば、ちょっと分かりづらい。公表するのであれば、ちょっと考えていただいたほうがいい	傷害情報の見方の中で事象の見本画像を示しつつ、定義とは異なる平易な言葉で説明を記載する (「3.ホームページの見せ方」参照)
			シートベルトの肩外れの定義案がありますが、専門でもないでよく分からぬ。できれば絵などで、どのような状況なのか示されてはどうか	傷害情報の見方の中で事象の見本画像を示しつつ、定義とは異なる平易な言葉で説明を記載する (「3.ホームページの見せ方」参照)
3.	引き続き検討する事項	映像確認結果の首掛けについて、令和8年度のアセスメント試験において実際に当該箇所の映像が取得できるかを検証し、首かけの評価が可能かを含め検討	特段のご意見無し	-
		ジュニアシート着用の啓発を機構HPの「守る」のページにておこなうことを検討	ここでユーザーに伝えたいことは、ジュニアシートがないよりはつけたほうが絶対に安全です、ということが一番大きい。 J A Fのサイトへのリンク等も個人的には非常によい。リンクを貼るときには、よくJ A F側と調整をしていただくと、よりよいものができるかと思う	傷害情報の見方とさせ、適切な使用について案内を掲載する (「3.ホームページの見せ方」参照) リンク先等を引き続き調整する (「3.ホームページの見せ方」参照)

新オフセット前面衝突試験の子供ダミー評価導入の検討

課題1. 5段階の色分けによる情報提供

課題2. 特記事項

課題3. ホームページの見せ方

課題4. 頭部移動量の計測

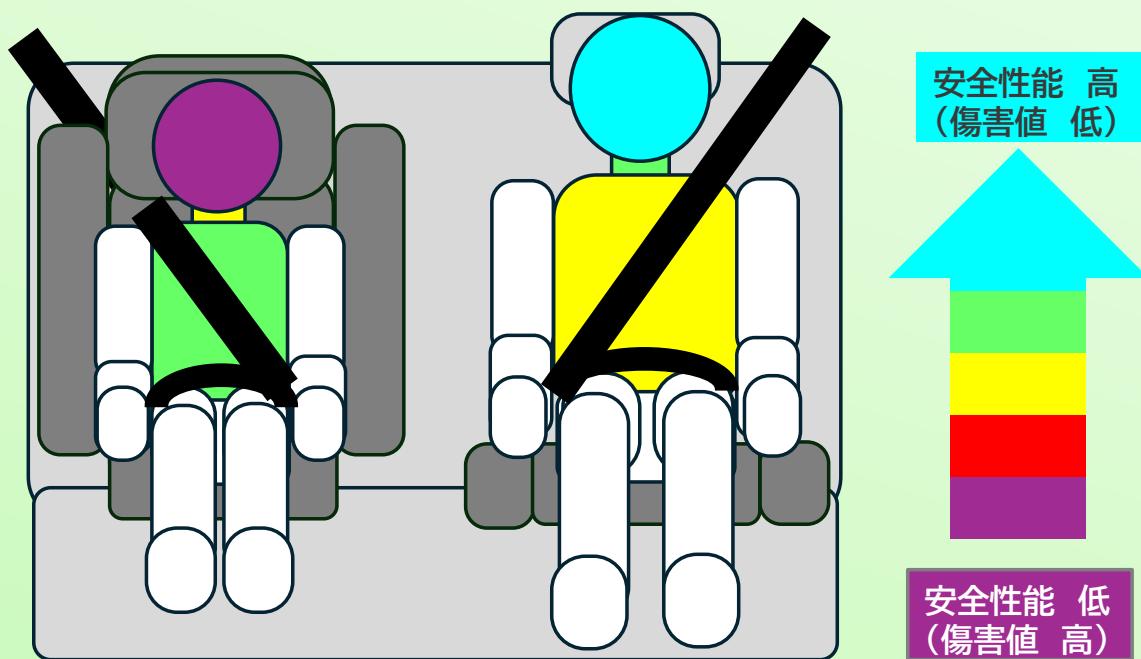
課題1. 5段階の色分けによる情報提供

子供乗員の傷害情報は総合評価には反映せず、視覚的に分かりやすいよう、頭、首及び胸各部の傷害値を点数に応じた5段階の色分けで情報提供をすることとしている。

令和7年度 第1回の検討会において傷害値の段階を示すカラーバーの配置は縦方向の方が直感的に分かりやすいとのご意見を頂戴している。

】頂戴した意見を基に、下記イメージのとおりとする。

5段階色分けによる情報提供のイメージ



新オフセット前面衝突試験の子供ダミー評価導入の検討

課題1. 5段階の色分けによる情報提供

課題2. 特記事項

課題3. ホームページの見せ方

課題4. 頭部移動量の計測

課題2. 特記事項

子供乗員の試験結果については、傷害値に基づく情報の他、試験映像の情報提供を行うこととなっているところだが、映像を見せるだけでは一般ユーザーはどういったものが危険な事象かがわからないので、しっかりと説明を行う必要性について、ご指摘を頂戴している。

映像から下表中欄で定義する事象の発生が確認できたい場合については、定義とは別に右欄の（例）のようにユーザーに分かりやすい文言と画像を用い特記事項欄を作成し説明することとしたい。

なお、映像から事象の発生が確認できなかった場合は「映像から確認できた項目は、特になし」と記載することとしたい表。

現象	定義	ユーザー向けの分かりやすい説明※ （＝「特記事項」）
肩外れ	「肩外れ」とは、衝撃でダミーが前方に移動している間に、斜めベルトが肩関節から上腕にかけて移動する状態又は斜めベルトが折りたたまれながら鎖骨と上腕の隙間に移動する状態のいずれかをいう。 (R7年度第1回検討会資料より引用)	（案）試験映像を確認した結果、今回の衝突試験では〇歳児ダミーにおいて「肩ベルト外れ」が発生しました。これは、衝突の衝撃で体が前進する際に肩ベルトが腕へずり落ちる事象です。上半身が固定されず、頭を車の内装へぶつける等の可能性が高まります。
腹部潜り込み	「腹部潜り込み」とは、衝撃でダミーが前方に移動している間に、ダミーの骨盤部分がベルトのラップ部分の下に潜り込む状態をいう。 (R7年度第1回検討会資料より引用)	（案）試験映像を確認した結果、今回の衝突試験では〇歳児ダミーにおいて「腰ベルトへの潜り込み」が発生しました。この事象は、衝突の衝撃で体が前進する際に、腰ベルトがお腹にかかる事象です。お腹を圧迫するため、内臓等を傷つける可能性が高まります。
腰ベルトの拘束外れ	（案）「腰ベルトの拘束外れ」とは、ベルトのラップ部分がリバウンド時に子供の骨盤を拘束せずダミーの上昇を妨げない状態を言う。	（案）試験映像を確認した結果、今回の衝突試験では〇歳児ダミーにおいて「腰ベルト外れ」が発生しました。この事象は、衝突の衝撃で前進した体が、反動で後方に戻る際に、腰ベルトが緩む事象です。身体が固定されないため座席から身体が投げ出され車の内装へぶつかる等の可能性が高まります

※事象が発生していない場合及び映像から事象の発生が確認できない場合は「映像から確認できた項目は、特になし」と記載する

新オフセット前面衝突試験の子供ダミー評価導入の検討

課題1. 5段階の色分けによる情報提供

課題2. 特記事項

課題3. ホームページの見せ方

課題4. 頭部移動量の計測

課題3. ホームページの見せ方

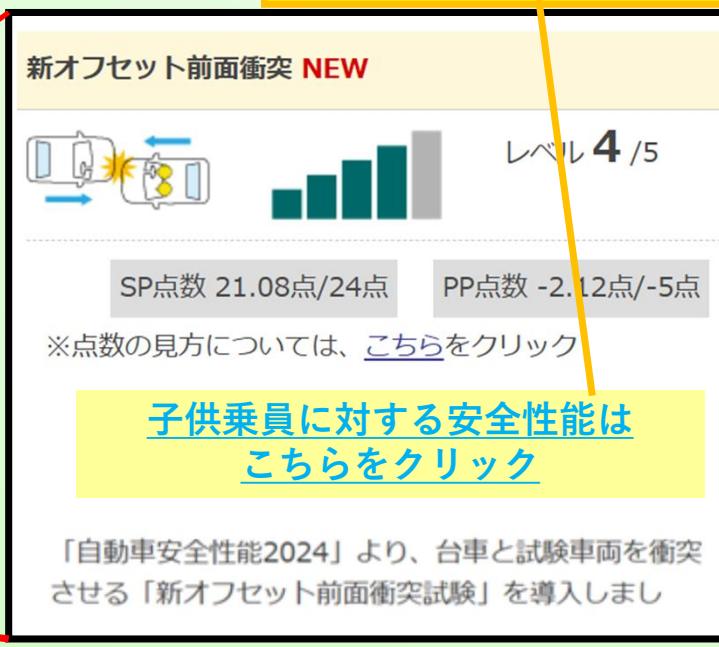
評価車種ごとの試験成績のPDFに結果を記載すると、キーワード検索で検索できないことが考えられるとの意見を頂戴しているところ
実際の子供乗員の試験結果の情報提供の方法は、評価車種ごとに子供乗員の試験結果ページを作成しすることとした。

試験結果ページへのアクセス方法については、下記イメージのように評価車種ごとの結果詳細ページの新オフセット試験欄に子供乗員ページへのリンクを掲載することとした。

子供傷害情報ページ リンクのイメージ 評価車種ごとの結果詳細ページ



**新オフセットの結果詳細に
子供傷害情報ページのリンクを
掲載する**



課題3. ホームページの見せ方

(1) 子供傷害情報ページの構成について

子供傷害情報ページについては、「実際の試験結果」、「結果の見方説明」、「ジュニアシートの適切な使用の注意喚起」で構成することとしたい。

(2) 「実際の試験結果」

実際の試験結果は別添のイメージのように、ダミーイラストとカラーバーと併せ試験映像のリンクと特記事項で構成する。

(3) 「結果の見方説明」

結果の見方説明は別添のイメージのように、試験結果の見方と併せ、特記事項欄の事象を画像と文章で、適切な状態と危険事象が発生した状態の説明を行うこととしたい。

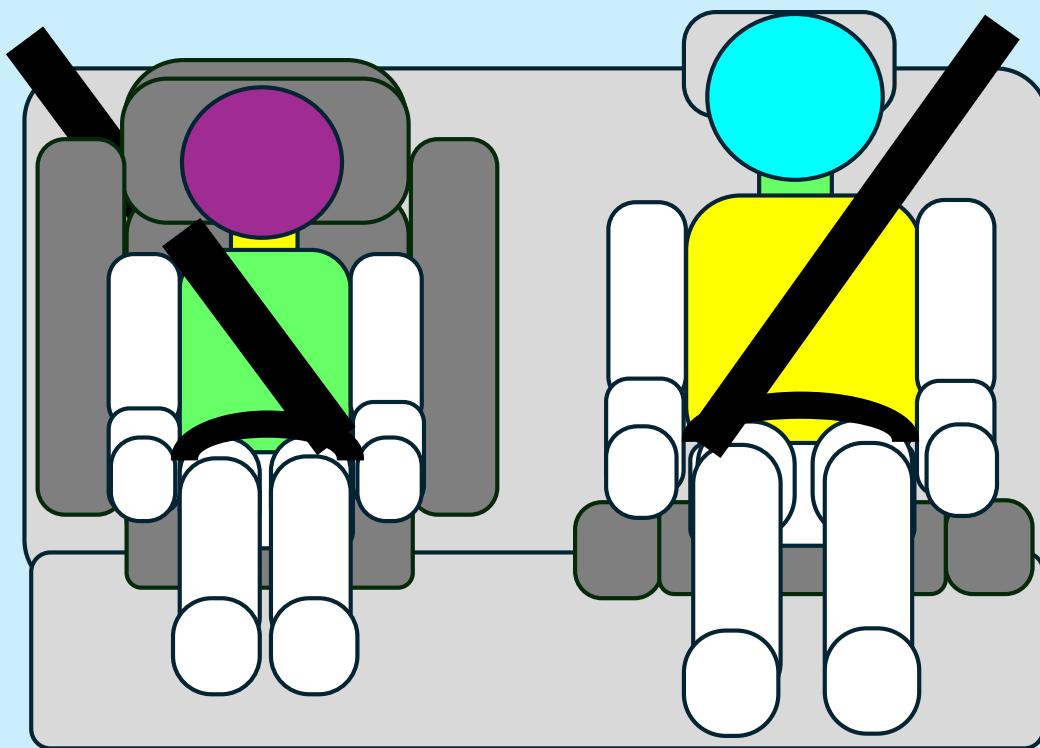
(4) 「ジュニアシートの適切な使用の注意喚起」

ジュニアシートの適切な使用の注意喚起では、試験の結果によらず、ジュニアシートを適切に使用することが重要であること説明するとともに、ジュニアシートを選ぶ際の注意を案内する。

また、選び方、使用方法等参考となる外部リンク、ジュニアシート使用しなかった場合の危険性などの、動画等の外部リンクを案内する。

新オフセット衝突試験 子供ダミーの試験結果

メーカー名：車種名



試験映像はこちら
(子供ダミーの映像は2:34から)

試験結果の特記事項

試験映像を確認した結果、今回の衝突試験では〇歳児ダミーにおいて「肩ベルト外れ」が発生しました。これは、衝突の衝撃で体が前進する際に肩ベルトが腕へずり落ちる事象です。上半身が固定されず、頭を車の内装へぶつける等の可能性が高まります。

図は業者に依頼しイラストを作成する



※事象が発生していない場合及び映像から事象の発生が確認できない場合は「映像から確認できた項目は、特になし」と記載されます

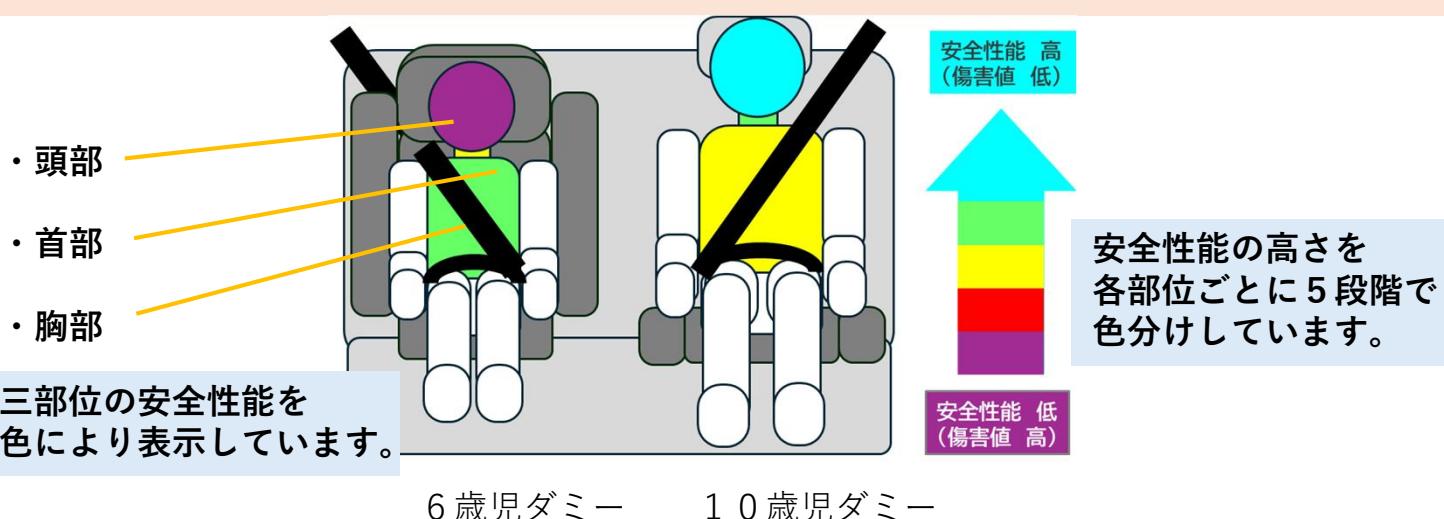
試験結果の見方は次ページ以降をご覧ください

(参考) 新オフセット衝突試験の子供ダミーの試験結果見方

「新オフセット前面衝突試験」では運転席及び助手席の大人ダミーのほかに、6歳児を模したダミーを運転席の後座席、10歳児を模したダミーを助手席の後座席に搭載して試験を行いその情報を提供しております。

本ページでは子供ダミー情報の見方を説明いたします。

ダミーの図の見方



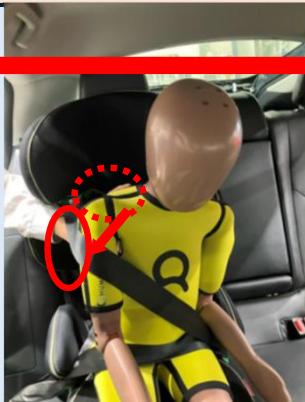
試験結果の特記事項の見方

試験映像を確認した結果、下の3つの事象が発生が確認された場合はその内容を「試験結果の特記事項」欄に記載しています。

また、発生確認した事象がない場合は「映像から、特に確認できた項目なし」ときります。

試験結果の特記事項

試験映像を確認した結果、今回の衝突試験では〇歳児ダミーにおいて「シートベルトの肩外れ」が発生しました。シートベルトの肩外れが発生した状況では上半身が十分に拘束されず、頭部を車両内装にぶつける等の可能性が高まります。



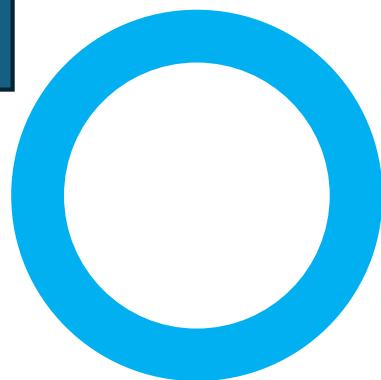
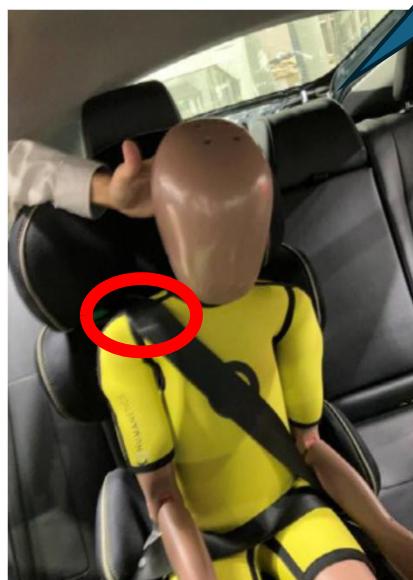
別添 子供傷害情報ページのイメージ 3/5

試験結果の特記事項の見方

〈肩ベルトの位置〉

適切な位置

写真はイメージ
です (JAMA様
撮影)



ベルトの肩部分はしっかり肩にかかり、首に掛かったり、上腕部分に下がったりしていない

シートベルトの肩外れが発生した状態



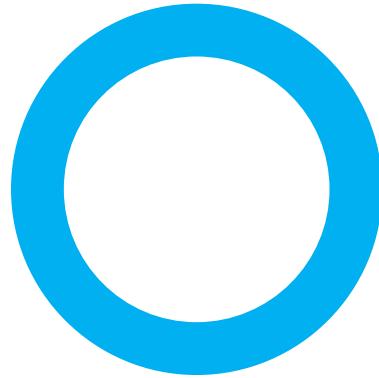
衝突の衝撃で身体が前進する際に肩ベルトが腕へずり落ちる事象です。上半身が固定されず、頭を車の内装へぶつける等の可能性が高まります。

別添 子供傷害情報ページのイメージ 4/5

試験結果の特記事項の見方

〈腰ベルトの位置〉

適切な位置



ベルトの腰部分はしっかりと骨盤に掛かり、腹部や太ももなどに移動していない

腰ベルトへの腹部潜り込みが発生している状態



衝突の衝撃で体が前進する際に、腰ベルトがお腹にかかる事象です。お腹を圧迫するため、内臓等を傷つける可能性が高まります。

腰ベルトの拘束外れが発生している状態

見本画像等



衝突の衝撃で前進した体が、反動で後方に戻る際に、腰ベルトが緩む事象です。身体が固定されないため座席から身体が投げ出され車の内装へぶつかる等の可能性が高まります。

ジュニアシートを適切にご使用頂くためのご注意点など

- 試験の結果によらず、安全のために、ジュニアシートを適切にご使用いただくことが重要です。
- ジュニアシートを選ぶ際には、お子様の身長にあった、シートを選んでください。また、ジュニアシートを適切に使用していない場合、ジュニアシートの効果が十分に得られない可能性があります。詳しくは、取扱説明書をご確認ください。
- 新オフセット前面衝突試験では、自動車製作者が推奨したジュニアシートを適切に設置して試験をしております。自動車製作者の推奨ジュニアシートにご関心がある場合は、自動車製作者にお問い合わせください。
- ジュニアシートの選び方や適切な使用方法については、以下のリンクも参考にしてください。

国交省 自動車総合安全情報チャイルドシート情報

<https://www.mlit.go.jp/jidosh/a...zen/02safetydevice/childseat.html>

JAF HP学童用チャイルドシート

<https://jaf.or.jp/----->

新オフセット前面衝突試験の子供ダミー評価導入の検討

課題1. 5段階の色分けによる情報提供

課題2. 特記事項

課題3. ホームページの見せ方

課題4. 頭部移動量の計測

課題4. 継続検討課題としての「頭部移動量の計測」への対応方針（案）

頭部移動量については、2026年度の評価項目には含めず、継続検討課題の位置づけであるものの、対応方針（案）としては以下のものを検討している。

＜対応方針（案）＞

（1）計測方法

頭部移動量は、車内に設置したハイスピードカメラの映像で確認するものの、移動量そのものを計測することは難しいため、車両内部に右図のような閾値を示したマーキングを行い、マーキングを超えるかどうかで判断することとする。

（2）点数の考え方

頭部傷害値（満点4点）に与えられる点数から、以下のマーキング位置と減点幅の関係（Euro-NCAPを参考にしたもの）に基づき、減点を行うこととする。

- ・Q6ダミー : 550mmを超えた場合にあっては4点を減点する
- ・Q10ダミー : 450mmを超えた場合にあっては2点を減点する
550mmを超えた場合にあっては4点を減点する

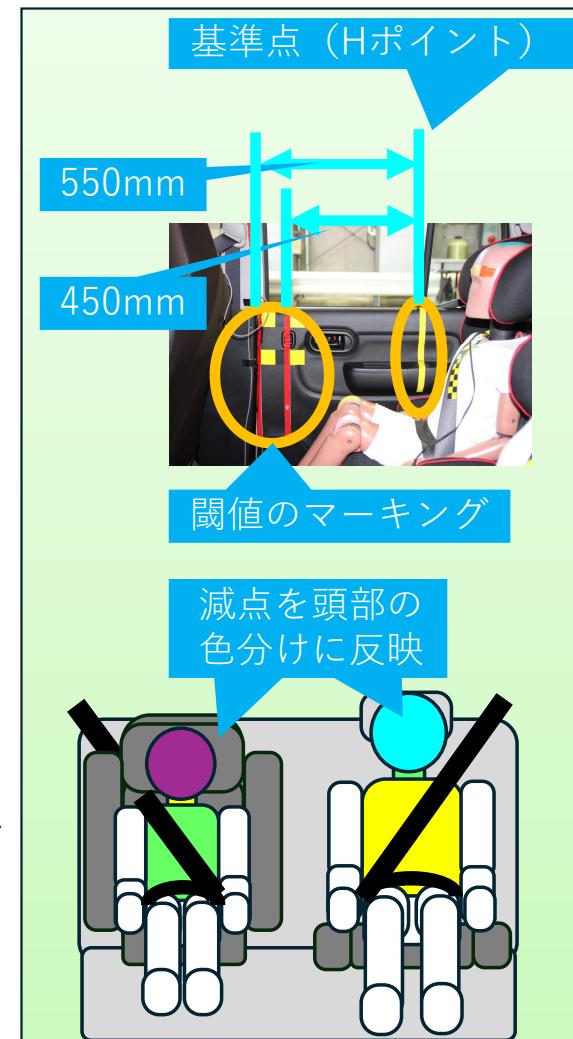
（3）頭部の色分け

頭部傷害値から上記減点を反映した色分けで表現する。

（4）評価開始スケジュール

現時点では未定。なお、令和8年以降の自動車アセスメント試験において、元々後席の子どもダミーの挙動の映像を公表することとしており、車内にハイスピードカメラを設置する予定である。この際、頭部移動量についても安定して計測できるかを確認し、具体的な評価開始スケジュールを検討することとした。

図.



課題4. 頭部移動量の計測

【参考】Euro NCAPのプロトコル

Euro NCAP ASSESSMENT PROTOCOL – CHILD OCCUPANT PROTECTION Version 8.1 11th December 2023

4.2.2 Frontal Impact

4.2.2.2 Head excursion modifier

The head score is reduced for excessive forward excursion. Where the head of the Q6 exceeds the 550mm forward excursion line a 4 point modifier is applied. For the Q10 a stepped modifier is used, where the Q10 head exceeds the 450mm or 550mm forward excursion line, a 2 or 4 point modifier respectively is applied. The excursion will be measured from the H-point location of the 5th female occupant with the rear seats adjusted in accordance with the Frontal MPDB test protocol.